



国際ロータリークラブ第2670地区徳島第2分区

## 美馬ロータリークラブ週報

2011年8月16日 火曜日 Vol.254

- 例会出席者 18名(会員総数30名) 出席率 60.0%
- メーキャップ ありません。
- ゲスト ありません。
- 会長挨拶 藤野 章二会長

昨日は、66回目の終戦記念日、昭和20年8月のその日以後、今日まで60年余も再び戦禍にまみえることなく見事なまでに平和を保持しつづけた国家は他に例が無く又、急速な復興、その間の驚異的な経済発展も世界に誇れる事かも知れません。しかし、それもこれも家族のため、お国のためにと自ら捨石となって戦いに散った300万余りの貴い犠牲の上に立っている事を忘れてはならないでしょう。

日本人は窮地になって団結する民族、大切な人を助けるため自らを犠牲にする。残され生かされた者は彼らに敬意と感謝を抱き続け、その死を無駄にしてはならじ…とひたすら頑張り抜く、そうした思いが一体となって今日の平和と繁栄が築かれたのでしょう。

3月11日、未曾有の大震災に見舞われた被災地で復興に汗する人々も又、こうした思いで頑張っておられる事と思います。私達にできる事は少ないけれど無念の被災者の思いを忘れる事なく、同じ同胞として復興を後押しする気持ちで念じ続けている思いがせめて届くようにと祈るばかりです。

### ■ 幹事報告 前田豊太郎幹事

- ◇ 到着週報 … 脇町RC
- ◇ 到着書類

- ・雑誌委員会及び会員増強委員会へ書類(ガバナー事務所)
- ・地区大会登録のお願い(ガバナー事務所)
- ・講演会の案内(美馬市日本・中国友好協会)

### ■ 委員会報告

ありません。

### ■ 卓話

#### ◆ 田中義美君 「今日の日経新聞を読んで」

皆さん、こんばんは。本日の卓話は、日本経済新聞の本日の記事の中からお話をさせていただきます。

☆ GDP実質1.3%減(4~6月年率)

内閣府が15日発表した2011年4~6月期の国内総生産(GDP)速報値は、物価変動の影響を除いた実質で前期比0.3%減、年率換算で1.3%減となった。マイナス成長は3期連続。東日本大震災によるサプライチェーン(供給網)の寸断で、自動車などの輸出が大幅に落ち込んだのが響いた。生活実感に近い名目GDPは1.4%減、年率で5.7%減と大きく落ち込み、デフレ圧力がなお根強いことも浮き彫りになった。

日本経済が3期連続のマイナス成長に陥ったのは、8年4~6月期以降の4期連続のマイナス成長以来である。与謝野馨経済財政担当相は「月ごとの動きを見れば、足元では景気は持ち直している」と強調した。

前期比年率でみた4~6月期の実質成長率は、日経グループのQUICKがまとめた民間予測中央値(マイナス2.5%)を上回った。マイナス幅も1~3月期の3.6%から大幅に縮小し、成長率は水面下ながら持ち直し傾向にある。

☆ 預金保険機構

政府は預金を保護したり金融システムを維持したりするための預金保険の料率を2012年度にも引き下げる方向で検討を始めた。預金保険機構は10年度に15年ぶりに累積損失を解消し、11年度も黒字になる見通しで、政府は1990年代半ばからの日本の金融システム不安を封じ込めたと判断した。料率の引き下げは71年の制度発足以来初めて。政府と預保機構は9月にも、預金保険料率の引き下げをめぐり金融界との協議に入る。最終的に預保機構の運営委員会で決めたいうで、金融庁長官と財務相が認可する。

預金保険料率引き下げは銀行の負担軽減となる。わずかながら預金金利が上がる可能性がある。

預金保険は銀行や信用金庫など金融機関が破綻時の預金払い戻しに備え、預金量の0.084%分を毎年、預保機構に拠出している。保険料率は12年度から段階的に引き下げる方向。数年後には0.048%へと4割下げる案を軸に検討する。預金保険の料率は0.012%だったが、旧住宅金融専門会社(住専)の処理など金融危機が本格化した96年に一気に0.084%へと7倍に引き上げ、今まで据え置いている。

預金保険料率の引き下げは、預保機構の積立金が黒字化したことが大きい。積立金は10年度末に1373億円の黒字となり、96年度から続いていた欠損状態を解消。日本振興銀行への資金援助や旧住専の最終処理に伴う支出はあるが、11年度末も3,000億円程度の黒字を確保する見通し。日本の金融危機に対応してきた料率を抜本的に見直す必要があると考えた。

日本の現状について、財務面からお話をしました。

◆ 石井正司 君 『短期交換留学生』

皆さん、こんばんは。IT委員の石井です。

今回は、早々と卓話が回ってきて、何について話すか戸惑ってしまいました。

IT委員活動の中での話を…とも、思ったのですが！しかし、卓話で話をするほど、まだ、活動をしていませんので、今日は、2007年から2010年までの4年間に受け入れた短期交換留学生6人について話したいと思います。あがり症で卓話の内容が分かり難いかもしれませんが、よろしく願います。

それでは、先ず受け入れまでの話、受け入れが終わってからの話、今、現在留学生とのかかわりについて話そうと思います。よろしく願います。

受け入れるまでの話ですが、受け入れが決まって、先ずやることは準備です。私は、受け入れ準備を軽く考えていました。と言うのも、説明会では「食事は家族でアットホームな雰囲気させてあげてください。」と言われました。ところが、私の家のテーブルは4人用でしたので、急いで6人用のテーブルに買い換えました。そして、説明会で「料理の手伝いや家事もいっしょにさせて下さい。喜びます。」と言われていました。ですから、食器や鍋とかもほとんど買い換えました。そして、「留学生2人は一緒に部屋に住ませて下さい。」との事だったので、ベッドも2台、布団類も2組揃えました。子供たちの部屋も移動しました。

今から思うと、受け入れ最初の年の準備は大変でした。

そして、受け入れ当日は、徳島へ迎えに行き、ウエルカムパーティに参加します。その後、留学生を車に乗せて帰ります。しかし、徳島から美馬町までの帰りの1時間くらいがまた大変です。運転に神経は使わないといけなし、無言が続いたらシラケルので話さないといけなし、言葉がわからなくても運転しているので辞書で調べることはできないし、10分くらいで帰って徳島市内のホストファミリーがうらやましく思えました。

そして、受け入れてからの話ですが、先ず、観光先や、体験して回る所を決めなければなりません。徳島県が、第2670地区最初の受け入れ県であれば、また、行き先は説明会で言われた「お寺や神社は、京都で回っているので、避けて下さい。」と言うくらいで、後は自由で、茶道体験や書道体験、剣道見学、ショッピングと色々行き先はあるのですが、最終の4日目とかに当たってしまうと、他県ですでに、ほとんど、茶道体験や書道体験、剣道見学、ショッピング体験しているので行き先がありません。その上、食事寿司、うどん、ラーメン、その他日本料理などほとんど食べているので珍しいものがなく、とても困ります。そして、初日、2日目はなんとか色々な行事に参加したり、観光に連れて行ったりしても、3日目あたりになると行く所もなくなり、話すこともなくなって少し気まずい雰囲気が漂います。

2回目あたりの受け入れで気づいたことですが、そこそこホッパラかしにすることもお互いにとって大切な事

だと思いました。

夜は、子供たちが学校から帰って来るので、留学生も大喜びします。花火をしたり、アルバムを見せ合ったり、学校の教科書を見せたり、英語を教えてもらったり、逆に日本語を教えたり、TVゲームをしたりと、大人という時と比べると、とてもリラックスして楽しそうです。毎回受け入れて思うことは、日本の夏休みに来てくれたら留学生もホストファミリーも充実した4日間が過ごせるになあ……！と思います。

そして、3日目あたりにインターアクトクラブの美馬商業高校に参加します。毎回同じなのですが、美馬商業高校の先生達も最初は、緊張してとてもカリカリした雰囲気です。

しかし、午後から迎えに行くと、生徒達はもちろん先生達もうちとけてニコニコした笑顔で感謝してくれます。毎回、連れて行ってよかったなあ～！と思う瞬間です。そして、最終日はいつも寂しいものです。2007年は第2670地区が、最終の受け入れ県だったので、グランビリオホテルでフェアウエルパーティに参加しました。家族で参加できてとても楽しい雰囲気でも、お別れができました。しかし、その他の年は次に受け入れ県があるので、フェアウエルパーティはありません。大体、次の県は高知県なので、三好町のハイウェイオアシスまで送って行ってバスに乗せます。子供たちも学校に行っているの見送りができません。とてもアツくない見送りになります。

受け入れが終わって帰国してからは、日本人とは違って、手紙が来たり、電話がかかってきたりと言うことは普通はほとんどありません。これは、留学生全体の特徴で悪気はないそうです。

今、現在の短期交換留学生との関わりですが、長女が2年前に受け入れたベッキーに Face Bookを教わり、今までに受け入れた6人の他に、沢山のアメリカ人の友達ができ、交流を図っています。

今年の3月には、ベッキーの家へ10日間、6月にはベッキーとベッキーの友達の家へヶ月間留学させてもらいました。NJ滞在中は、いろんなところに連れて行ってもらったり、色んな物を買ってくれたり、食事も高級寿司店にも連れて行ってもらったそうです。しかも、お金はすべて出してくれたらいいです。そして、娘から聞いた話ですが、2件目で受け入れてくれたチャールズマローさんは、現在、家族も本人もロータリアンではないのですが、将来ロータリアンになりたいらしく、ローターアクトに参加するため、日本語や日本人を理解するために、長女を受け入れてくれたようです。

ちなみに、良いことか、悪いことか、まだ判りませんが、長女が今行っている大学を休学して、NYの大学を受験します。

留学生を受け入れる事は、大変な事も多いのですが、とても楽しいことも多かったと思いました。そして、留学生を受け入れることは、子供たちにとっても、大変素晴らしい影響を与えることだと思いました。最近、インフルエンザや東北の震災で、交換留学生は中止になっていますが、再開されれば、また、受け入れたいと思います。皆さんも、是非、一度は受け入れてみて下さい。

■ ニコニコ

ありません。

■ 欠席者

三好亘君、小野一史君、千葉正樹君、青木茂生君、浪越繁男君、林秀樹君、藤田茂樹君、青木博美君、七田義貞君、野々村隆君、山内浩司君、澤田篤也君

メーキャップしましょう。